

## 令和4年度1月定例教育委員会議事録

### 【日時】

令和5年1月20日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後3時18分

### 【会場】

辰野町民会館 104 学習室

### 【出席者】

10名

(辰野町教育委員会)

教育長	宮澤 和徳
教育長職務代理	飯澤 隆
教育委員	垣内 由佳
教育委員	関 政彦
教育委員	萩原 多恵子

(事務局関係)

生涯学習課長	福島 永
こども課長	小澤 靖一
こども課長補佐	田中 香織
学校教育係長	翠川 俊一
学校教育係	三村 瑞樹

### 【傍聴者】

0名

## 【次第】

### 1 議事

- (1) 【非公開】 指定校変更の許可について
- (2) 【非公開】 区域外通学の許可について

### 2 協議

- (1) 【非公開】 学校・保育園の様子及び運営上の諸課題
- (2) 【非公開】 教職員の人事異動【転出予定者】
- (3) 4年度教育課程の反省と5年度教育課程の方向
  - ① 児童生徒数、学級数
  - ② 教育課程
- (4) 5年度教育委員会関係施策の重点
  - ① こども課関係
    - ・町内小・中学校のあり方
    - ・町独自の教育施策
  - ② 生涯学習課関係
    - ・各係の施策
- (5) 5年度教育委員会関係予算【査定から】
- (6) 社会教育委員との懇談
- (7) その他

### 3 報告事項

- (1) その他
  - ① 市町村教育委員会連絡協議会（1月）報告
  - ② その他

## ○開会

### 1 開会の言葉

＜宮澤教育長＞

教育委員会を開催させていただきます。

### 2 会期の決定

＜宮澤教育長＞

本日1日限りとしたいがよろしいでしょうか。→異議なし

### 3 議事録の承認

＜宮澤教育長＞

12月の定例教育委員会の議事録についてご異議はありませんか。  
異議なしと認め、後ほど署名をお願いします。

### 4 宮澤教育長挨拶

今日は二十四節気の大寒で1年の中でも最も寒い時期です。大寒から節分、立春までは寒さが厳しい頃となります。年末から天気も良く穏やかな日々が続いていましたが、来週は大寒に合わせてように最強寒波が襲来、しかも10年に一度あるかないかの大寒波であり、天気予報を見ましても脅かされています。

一方コロナ禍は丸3年が経過しました。今でも出口が見えません。寒さとコロナ、さらにはインフルエンザも最近出てきていますのでお互いに体には十分気を付けていただいてなんとかこの厳しい季節を乗り切りたいと思っています。

町内の保育園小中学校のコロナの感染状況ですが、保育園も学校も休み明けに感染者はポツポツ出てはいますが、毎日の報告を見ましても1人あるいは2人のように町全体で感染拡大といった状況ではありません。保育園も学校も比較的落ち着いています。

保育園小中学校ともに年末年始休み中、大きな事件事故もなく良い休みで、良い新年を迎えられました。保育園も学校も3学期に入り今年度のまとめに入っています。卒園、卒業写真の撮影も一部では始まり、1年間のまとめをして、来年度の生活づくりも始まっています。年度末、また忙しくなっています。

さて今日の教育委員会ですが、ご案内のように15時30分から社会教育委員の皆さんとの懇談が予定されていますので15時15分には終了したいと思います。時間は短いですが内容的には濃いものもございます。よろしくお願

いたします。

## 5 議事

- (1) 【非公開】指定校変更の許可について
  - ・翠川学校教育係長より説明。承認。
- (2) 【非公開】区域外通学の許可について
  - ・翠川学校教育係長より説明。承認。

## 6 協議

- (1) 【非公開】学校・保育園の様子及び運営上の諸課題
  - ・宮澤教育長より説明。
- (2) 【非公開】教職員の人事異動【転出予定者】
  - ・宮澤教育長より説明。
- (3) 4年度教育課程の反省と5年度教育課程の方向
  - ① 児童生徒数、学級数
  - ② 教育課程
    - ・宮澤教育長より資料について説明。

### < B委員 >

先日、川島小学校の1, 2年生の授業を見た。子供は二人、算数の授業。複式の授業はどうやるのかと思っていた。ICTを活用しデジタル教科書を使う、バーコードを読み込むと練習問題が出てくる、それを活用。片方の子供は直接指導を受ける。切りのいいところで交代。私自身大変勉強になった。使い方によってはとてもいいものだと思った。A先生はとても柔らかい先生で子供の動きを見ながら「こういう風にしなさい」ではなく、子供に合わせて授業をしている。ICTを先生方が勉強しながら、どうやってうまく使って行けばいいか学ぶ必要があると思った。

### < 宮澤教育長 >

それぞれの学校でICTに秀でた先生がいて、協力し合っていればいいが、なかなかうまく行かないのが現状。複式学級の授業は非常に力がある先生でも難しいもの。複式学級の各学年にもう数人ずつ子供がいれば、タブレットを活用した情報交換の授業ができる。

< C 委員 >

もう一つ見た授業では、タコ作りの授業。先生はあまり出ず二人で協力して作っていて、これもいい姿と思った。

< 宮澤教育長 >

それが半歩先の支援。今まで子供のためにレールを全て敷いていたが、それでは子供がお客さん。今では子供の学びを全て準備するのではなくあまりお膳立てをしない指導。

< D 委員 >

今年度教育課程の反省において、川島小の中に、西小の音楽会に参加して自信が付いたとあった。これはとても良いこと。統合に向けてのところもあるだろうが、最後の「自信が付いた」をどのように捉えたらよいか。少人数を求めている子供が大人数の中に入って自信が付いたということか。少人数であったので大人数の中学校に行った場合や、統合した場合に不安感があると考えていいのかとも思った。

< 宮澤教育長 >

私もこの場面をみていた。やる前はとても緊張しているのが伝わってきたが、覚悟を決めて前に出てやり始めた自分たちもできたと思ったとのこと。今までなかった経験ができたということ。子供たちの感想の中にも、最初はたくさんの方がいて緊張したがうまくできてよかった、拍手をもらってうれしかったとある。自分たちもやれたんだという思いを感じたと理解している。

< E 委員 >

辰野東小で通知票を付ける時期に 5 時間授業をして対応したとある、すごいことだ。両小野小では下校時刻を早くしたいとある。小学校では大体 4 時頃が下校時刻で先生たちの勤務が終わる時刻が 4 時 45 分頃。そうすると仕事ができる時間はわずか。県からは長時間勤務を減らせと来る。45 分や 50 分では何もできない。明日の授業 6 時間分準備するとなると時間が必要。

辰野町の年間授業日数は大体 203 日、伊那市あたりはもっと少ないが果たして減らしてよいのかということを経験課題としてみていく必要はないか。私が勤めていたころは 210 日あった。6, 7 日減るということは  $6 \times 6$  の 36 時間、 $6 \times 7$  の 42 時間くらい減るので登校日数を減らさなければ 5 時間授業の日を確保できる。1 日 6 時間ではなく 5 時間でということも研究していく必要が

あるのではないか。

<宮澤教育長>

今、各学校では来年度の計画を立てている。先日の校長会でも授業日数を減らしていくのは反対、増やすこともいいと伝えた、日数を増やして6時間を5時間にしていくなどもよいと話してある。校長が提案しても先生方はまじめでユニークな発想には理解しづらい傾向もある。F小学校ではノーカバンデー、ノー宿題デーなどを提案したが賛同が得られなかったと聞く。

<G委員>

夏休みは30日ほどあるが、休みがたくさんあっても日々の仕事には関係してこない。10月のことを夏休みに準備するかと言ってもそうはならない。もしかすると保護者は夏休みが長くて困っているかもしれない。3月の休みは20日近くもあることも大きな問題。うまく改善して授業時数確保をやりたい。これも研究課題。

<宮澤教育長>

とても大事なこと。3月の公立高校合格発表が年々早くなってきていた。今年は止まったが早くなると中学校の卒業式も早くしなければならない。今までなぜ登校日数を減らしてきたか。以前上伊那でも競って減らしていく傾向があった、私は反対で、辰野町は減らさないとした。それがコロナの時よかった。コロナで全国一律で学校を休校にするとなった時、多くの学校では学習指導要領が終わらないので補習をとったが、辰野町ではなかった。コロナがなければ上伊那でも中部や南部で200日を切っていたかもしれない。

<G委員>

保護者とする、夏休みは短くてもよい。

<H委員>

授業日数を減らすと先生方の1日当たりの負担が大きくなる。中学校の部活の話が新聞によく出るが、これをやるにはクラス担任を二人制にしなければ成立しないのではないか。

<宮澤教育長>

部活動は地域移行をしても、先生方の負担は増える一方だと思う。県教委は部活動の地域移行という言葉を使わなくなっている。

(4) 5年度教育委員会関係施策の重点

① こども課関係

町内小・中学校のあり方

町独自の教育施策

② 生涯学習課関係

各係の施策

(5) 5年度教育委員会関係予算【査定から】

・小澤こども課長、福島生涯学習課長よりそれぞれ説明。

こども課：あり方検討委員会の委員の選出、ほっとサポート・教育支援員の配置、国に子ども家庭庁の設置されることへの対応等

生涯学習課：施設の老朽化への対応、人権講演会の開催、シダレグリの再生事業等

・宮澤教育長より別紙、「辰野町における新たな学び 仮称「たつのこ学舎（スマイル学舎）」について説明。

→時間の都合により、次回意見感想を求める。

・ゆるやかNETからのメールについて関教育委員より説明。

<宮澤教育長>

先日、前教育委員のJさんが来た。川島ではその後、新たな動きは見られないとのこと。

<K委員>

L町議が、議決の際の討論で、もともとの統合のきっかけの話をしていて、あり方検討委員会前の話であるので、どうだったかは分からない。川島小学校のDNAという話も出たが何を以てDNAというのか。

<宮澤教育長>

最初のきっかけは私もよく分からないが、以前川島区の各耕地で意見集約をしたが、各耕地まともならず区でもまともなかつたことは聞いていた。私は未就学児童を持つ保護者との懇談で、13家庭が誰一人川島小学校に入れたいという状態に驚かされた。

<M委員>

その少し前に学校適正規模配置化委員会があり、私もメンバーであった。東小のPTA会長という立場であった。文科省からのお達しがあつての会議であ

ったように思うが結論が出ずに終わったような気がする。

<N委員>

特認校になったのはそのころ？

<宮澤教育長>

特認校は25年。

<O委員>

私の子どもが小学校に入学するとき、特認校制度があつて、当時保護者同士で「少人数もいいけど地元にあるから行く必要はないよね」と話したことがあつた。数年たつても行く人はいなくて、今の中3の年代からか。

<宮澤教育長>

新しいあり方検討委員会の方は、現在様々な検討を行っている。組織的なものは前回の委員会と同じような構成と思う。委員長はどうするかが大きな課題。

(6) 社会教育委員との懇談

・小澤こども課長より、懇談内容について説明。

その他

7 報告事項

(1) その他

① 市町村教育委員会連絡協議会（1月）報告

・宮澤教育長より資料について報告。

② その他

・なし

8 その他

・なし